二〇一三年九月六日

天高く響く部活の子らの声　満天
雨脚のカーテンとなる梅雨の窓　三刀
嵐去り軽鳧の一家に大事なし　さつき
病床に俳句三昧暑に耐ふる　三刀

二〇一三年九月五日

新涼やスキップ踏みて朝散歩　さつき
これからも二人三脚老の春　三刀
秋天を二タ分けしたる飛行雲　はく子
みそなはす磨崖地蔵に早稲香る　雅流
赤れんが倉庫真青き秋天下　なつき

二〇一三年九月四日

あるなしの風に騒ぎて竹の春　宏虎
コスモスの広野に通ふ風のあり　よし子
背比べするごと紫苑立ち並ぶ　きづな

二〇一三年九月三日

爽やかにお礼を述ぶる喪主若し　満天
神の杜広し間遠に法師蝉　ぽんこ
電線を搦めて宙へ葛の蔓　せいじ
鰯雲校舎の空を埋めけり　菜々

新米と大書され着く宅急便　あさこ
草の花降りつぐ雨に伏しにけり　つくし

二〇一三年九月二日

長き夜の愉し明日は休業日　こすもす
通夜終へて帰るさの道虫しぐれ　満天
虫すだく工事現場の駐車場　せいじ

二〇一三年九月一日

銀ぶらの慣れぬヒールや秋暑し　なつき
微笑める千手観音初紅葉　ぽんこ
八朔祭祝ひ南京玉すだれ　うつぎ
栗供ふ亡き子に声をかけもして　あさこ

二〇一三年八月三一日

爽やかやカーテンコール鳴り止まず　さつき
愁思憑くアントワネット展を出て　菜々
野路の秋山辺の道一人旅　せいじ
球探しせる野球子に猫じやらし　治男

毎日句会みのる選・二〇一三年九月九日